

世界旅打ち気分

●第55回・アイルランドの競馬場2場

須田鷹雄



写真3) 快晴の日にも見てみたい、ダンダーグのレースシーン



写真2) パドックの雰囲気がいいし、若い来場者も多い



写真1) この中に入るのに当時は接種証明が必要だった

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

今日はアイルランドの競馬場を紹介したい。
以前カラフ競馬場などを紹介したときに書いたと思うが、筆者は2021年11月にアイルランドを訪問している。当時はまだ新型コロナウイルスによる規制が残り、自由に旅ができる状態ではなかった。しかし単行本にどうしてもレタウン競馬場(年に1日だけある砂浜競馬)を収録したく、無理をおして渡航した次第である。

せっかくアイルランドまで来たのだから、ということで他にも何場か行つたわけで、そのひとつがクローネル競馬場。ダブリンから南西に車で2時間半ほどのところにあります。日帰りは正直厳しい。しかも私が行つたときはさるなる障害が待ち構えていた。

行きの行程を半分くらい消化したところで、「この先工事のため通行止め区間あり」との表示が。悪い予感はしたが現実を認めた。なのでそのまま進行したところ、本当に通行止め区間にぶち当たった。しかもグーグルマップに工事情報が反映されておらず、迂回路なども表示されない。

今回紹介するもうひとつ競馬場が、ダンダーグ競馬場。施設の名前としてはダンダーグスタジアムと呼ばれている。競馬場の「

ス内にグレイハウンド(ドッグレースのトラックもあり、日によつてどちらの競技も行われるからだ。

このダンダーグ、もとはナショナルハント(障害)の競馬場だったらしいのだが、2003年にいまの平地用コースが完成し、07年にスタン

ドもできて供用されるようになつたらしい。4年かかった理由は謎だが。一方グレイハウンドももともとコースがあったものが移転してここに収容されたようだ。

競馬場はオールウェザートラック(ポリトラック)が一本あるだけで、芝コースはない。大レースはほとんどの人が、平地シーズンのはじめイギリスが「ロナ」に関してはザルもいい」というのがした。

クローネルのレースは、普通の障害競走なのだが、パド

ツクは他場より魅力的だった。後

ろに森がある角度で見ることで

きるし、古い事務所棟をパドックに見てもいい(写真2)。そこに居るだけで楽しくなるパドックだ。

今回の紹介するもうひとつの競馬場が、ダンダーグ競馬場。施設の名前としてはダンダーグスタジアムと呼ばれている。競馬場の「ス内にグレイハウンド(ドッグレースのトラックもあり、日によつてどちらの競技も行われるからだ。

このダンダーグ、もとはナショナルハント(障害)の競馬場だったらしいのだが、2003年にいまの平地用コースが完成し、07年にスタン

ドもできて供用されるようになつたらしい。4年かかった理由は謎だが。一方グレイハウンドももともとコースがあったものが移転してここに収容されたようだ。

競馬場はオールウェザートラック(ポリトラック)が一本あるだけで、芝コースはない。大レースはほとんどの人が、平地シーズンのはじめイギリスが「ロナ」に関してはザルもいい」というのがした。

クローネルのレースは、普通の障害競走なのだが、パドツクは他場より魅力的だった。後ろに森がある角度で見ることできるし、古い事務所棟をパドックに見てもいい(写真2)。そこに居るだけで楽しくなるパドックだ。

まず、地元客で賑わっている。アイルランドでは「ロナ」による集会終わりにG3がふたつある。芝の競馬場を補完する役割なので、開催数も11月から3月は多く、5月からの月は数えるほどしかない。

こちらのダンダーグ競馬場はダ

ブリンから車で北へ1時間半ほど。

高速のような道主体でたどり着け

るので、悪路に苦しむような心配はない。

このダンダーグに行つたときも、コロナ規制があるので前売券は買ついた。さらに指定席券など確実にスタンンド内で座れる券が欲しかったのだが席だけの券はなかつたので、カジュアルなレストラン&バーのようなどころのテーブルを予約していく。テーブルといつても、支払いは一人ぶんのみである。

当日行ってみると、テーブルに置かれており、見渡したところにみんなが立っているのは私だけだった。どうも行ってから席は取れた

ようで、ちょっと張り切りすぎて恥ずかしい感じになつてしまつた。たゞ現場の人たちは親切で、予約札

が立っていたテーブルよりもレースが見やすい席に変えてくれたり、飲み物の世話なども気をつかってくれた。コロナ禍に日本人一人なんて不審者もよいところだと思うのだが、おかげで快適に過ごすことができた。皆さんにはぜひ「不審じないグループ」くらいの感じで訪れていただきたい。このレストラン&バー&エリシア以外はわりと簡素に、イギリスよりすべてにおいてちゃんと

ノーチェックで入れたので、競馬場なりタイミング(政府の規制)によるところがあつたかもしれない。ただ全体的に見て、アイルランドは

客が多い。そして老人から子供まで幅広い年齢層の来場者がいる。さらに周りは自然に囲まれており、どんな画角を切り取っても雰囲気がある。

そして、競馬場の運営もしっかりしていた。当時は前売り券を買つた人しか競馬場に入れないというルールだったのだが、それもしっかりと守られていた。さらに、レストランなどの密閉空間に入るためには、道は未舗装なだけぬかるんで、車が走行するとそれ違ひで、走る車が来るときに突入していく地元の車もある。

ところが前の車も確信があつて突つ込んだわけではなかつたよう

で、道は未舗装なだけぬかるんで、車が走行するとそれ違ひで、走る車が来るときに突入していく地元の車もある。

ところが前の車も確信があつて突つ込んだわけではなかつたよう

で、道は未舗装なだけぬかるんで、車が走行するとそれ違ひで、走る車が来るときに突入していく地元の車もある。

ところが前の車も確信があつて突つ込んだわけではなかつたよう

で、道は未舗装なだけぬかるんで、車が走行するとそれ違ひで、走る車が来るときに突入していく地元の車もある。

ところが前の車も確信があつて突つとしたわけではなかつたよう

で、道は未舗装なだけぬかるんで、車が走行するとそれ違ひで、走る車が来るときに突入していく地元の車もある。